

地球温暖化対策についてのアンケート調査の集計結果

調査時期：平成21年6月

対象者：県政モニター

回答数：163人（回収率82.7%）

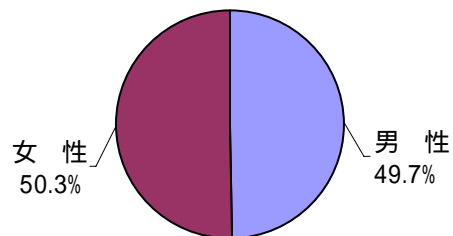
担当課：琵琶湖環境部 環境政策課 温暖化対策室

調査目的：県では、豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくために、地球温暖化対策を推進するための新たな条例の策定や、2030年における温室効果ガスの排出量を1990年比で50%削減するための道筋を明らかにする「ロードマップ」づくりに取り組んでいます。

県政モニターの皆さんの地球温暖化対策に対するお考えやご意見をお聞きし、策定にあたっての参考とするためアンケート調査を実施しました。

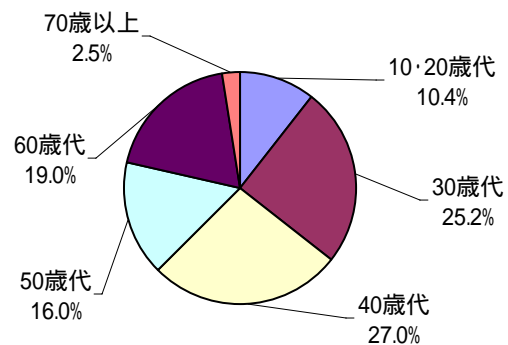
問1 あなたの性別を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
男性	81	49.7%
女性	82	50.3%
合計	163	100.0%



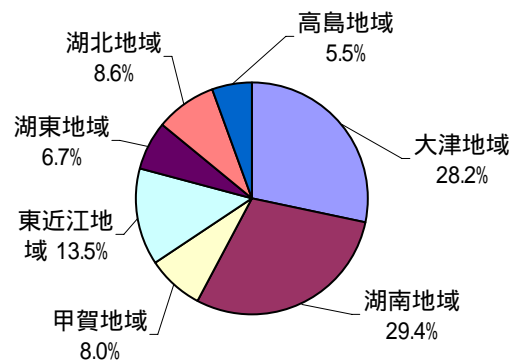
問2 あなたの年代を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	17	10.4%
30歳代	41	25.2%
40歳代	44	27.0%
50歳代	26	16.0%
60歳代	31	19.0%
70歳以上	4	2.5%
合計	163	100.0%



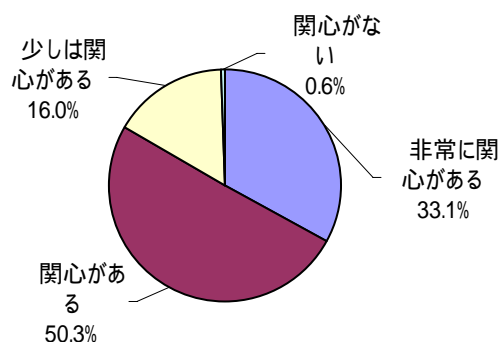
問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	46	28.2%
湖南地域	48	29.4%
甲賀地域	13	8.0%
東近江地域	22	13.5%
湖東地域	11	6.7%
湖北地域	14	8.6%
高島地域	9	5.5%
合計	163	100.0%



問4 あなたは、地球温暖化問題に関心をお持ちですか。(は1つだけ)

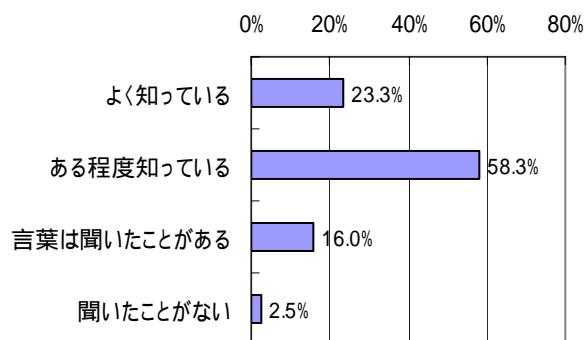
項目	人数(人)	割合(%)
非常に関心がある	54	33.1%
関心がある	82	50.3%
少しは関心がある	26	16.0%
関心がない	1	0.6%
分からない	0	0.0%



問5 「地球温暖化」に関する次の用語をどの程度ご存知ですか。(1)～(10)の項目について、それぞれ1つずつ を付けて下さい

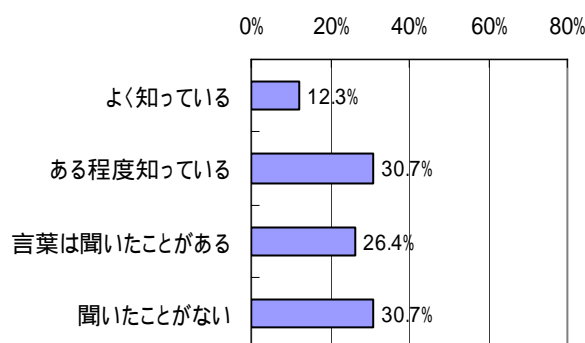
(1) 京都議定書

項目	人数(人)	割合(%)
よく知っている	38	23.3%
ある程度知っている	95	58.3%
言葉は聞いたことがある	26	16.0%
聞いたことがない	4	2.5%
合計	163	100.0%



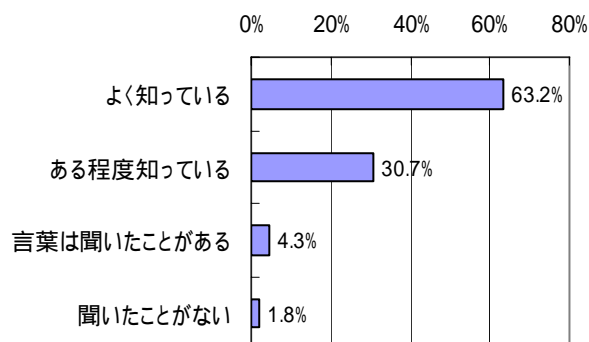
(2) グリーンニューディール

項目	人数(人)	割合(%)
よく知っている	20	12.3%
ある程度知っている	50	30.7%
言葉は聞いたことがある	43	26.4%
聞いたことがない	50	30.7%
合計	163	100.0%



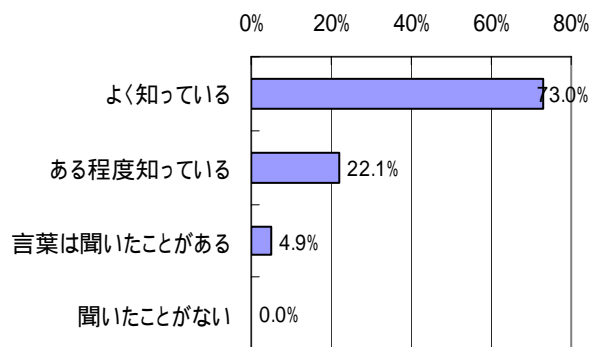
(3) クールビズ、ウォームビズ

項目	人数(人)	割合(%)
よく知っている	103	63.2%
ある程度知っている	50	30.7%
言葉は聞いたことがある	7	4.3%
聞いたことがない	3	1.8%
合計	163	100.0%



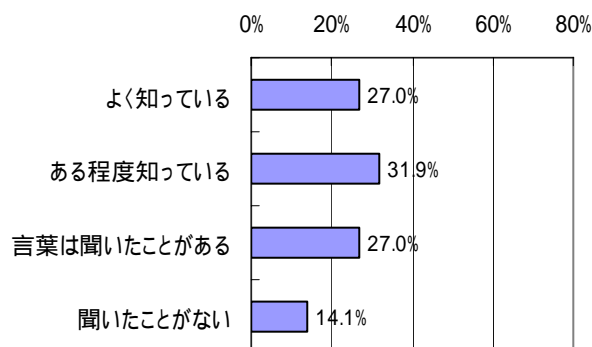
(4) アイドリングストップ

項目	人数 (人)	割合 (%)
よく知っている	119	73.0%
ある程度知っている	36	22.1%
言葉は聞いたことがある	8	4.9%
聞いたことがない	0	0.0%
合計	163	100.0%



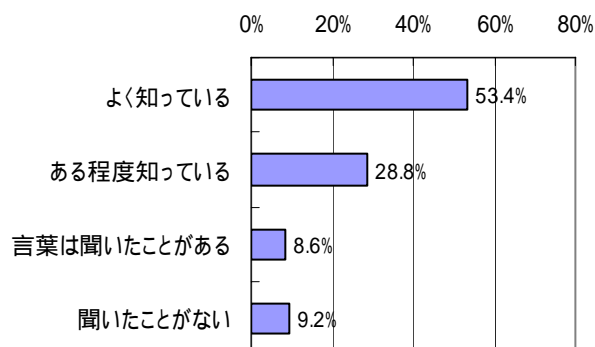
(5) グリーン購入

項目	人数 (人)	割合 (%)
よく知っている	44	27.0%
ある程度知っている	52	31.9%
言葉は聞いたことがある	44	27.0%
聞いたことがない	23	14.1%
合計	163	100.0%



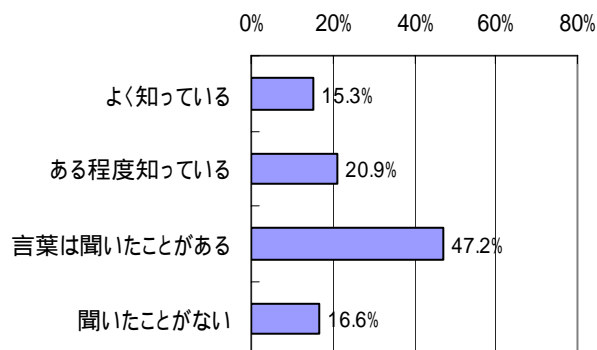
(6) 地産地消

項目	人数 (人)	割合 (%)
よく知っている	87	53.4%
ある程度知っている	47	28.8%
言葉は聞いたことがある	14	8.6%
聞いたことがない	15	9.2%
合計	163	100.0%



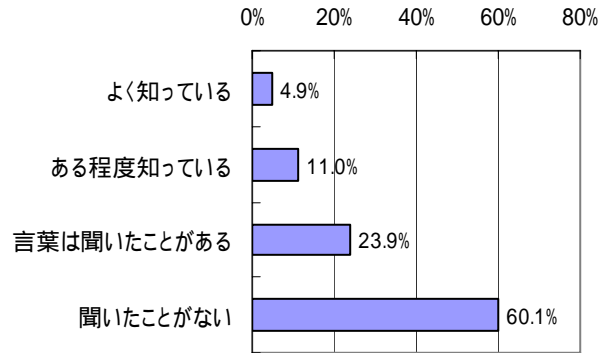
(7) カーボンオフセット

項目	人数 (人)	割合 (%)
よく知っている	25	15.3%
ある程度知っている	34	20.9%
言葉は聞いたことがある	77	47.2%
聞いたことがない	27	16.6%
合計	163	100.0%



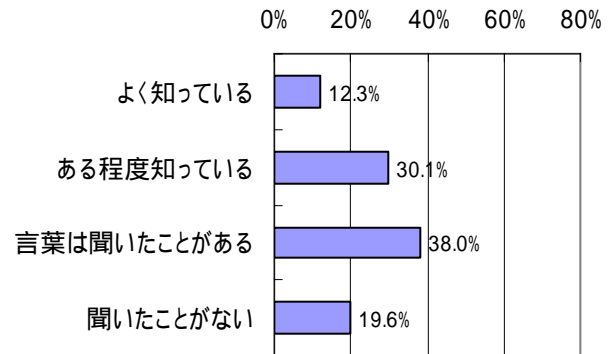
(8)カーボンフットプリント

項目	人数 (人)	割合 (%)
よく知っている	8	4.9%
ある程度知っている	18	11.0%
言葉は聞いたことがある	39	23.9%
聞いたことがない	98	60.1%
合計	163	100.0%



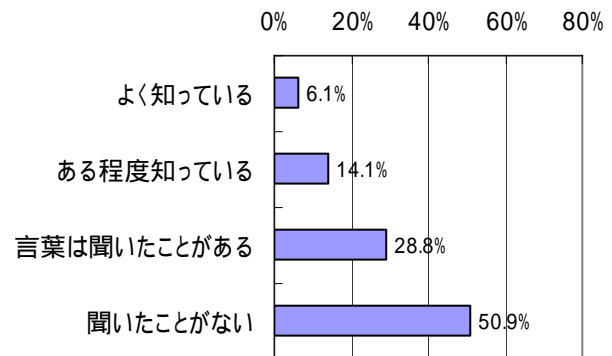
(9)再生可能エネルギー

項目	人数 (人)	割合 (%)
よく知っている	20	12.3%
ある程度知っている	49	30.1%
言葉は聞いたことがある	62	38.0%
聞いたことがない	32	19.6%
合計	163	100.0%



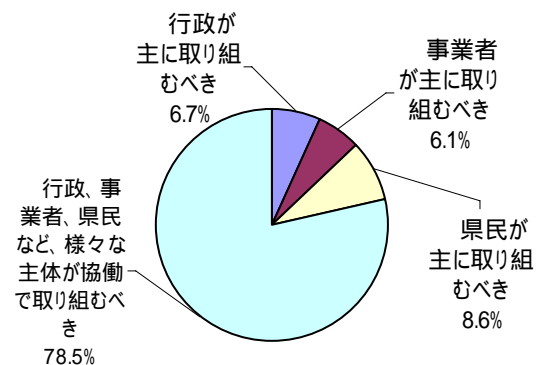
(10)コンパクトシティ

項目	人数 (人)	割合 (%)
よく知っている	10	6.1%
ある程度知っている	23	14.1%
言葉は聞いたことがある	47	28.8%
聞いたことがない	83	50.9%
合計	163	100.0%



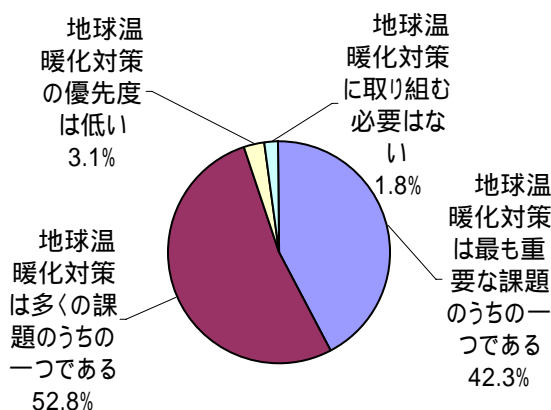
問6 地球温暖化対策には主にどの主体が取り組むべきだとお考えですか。(は1つだけ)

項目	人数 (人)	割合 (%)
行政が主に取り組むべき	11	6.7%
事業者が主に取り組むべき	10	6.1%
県民が主に取り組むべき	14	8.6%
行政、事業者、県民など、様々な主体が協働で取り組むべき	128	78.5%



問7 現在、私たちの身の回りには様々な課題が存在しますが、それらのうち地球温暖化対策についてはどのようにお考えですか。(は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
地球温暖化対策は最も重要な課題のうちの一つである	69	42.3%
地球温暖化対策は多くの課題のうちの一つである	86	52.8%
地球温暖化対策の優先度は低い	5	3.1%
地球温暖化対策に取り組む必要はない	3	1.8%
合計	163	100.0%

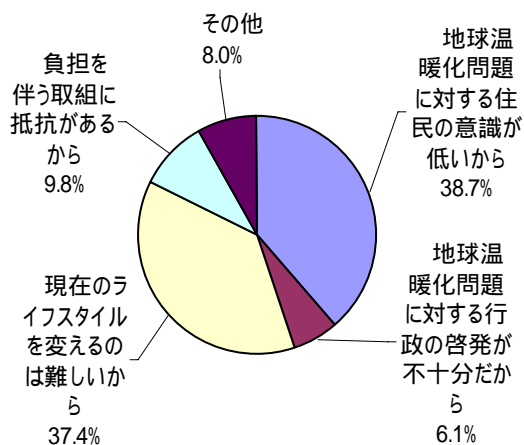


の理由 記述事項

- ・CO2 と地球温暖化との因果関係が学問的に立証されていない。
- ・温暖化の根拠はかなり疑わしい。
- ・温暖化対策ではなく、エネルギー政策等個別に取り組むべき。

問8 家庭部門からの二酸化炭素排出量が削減されない理由としてどのようなことが考えられると思いますか。(は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
地球温暖化問題に対する住民の意識が低いから	63	38.7%
地球温暖化問題に対する行政の啓発が不十分だから	10	6.1%
現在のライフスタイルを変えるのは難しいから	61	37.4%
負担を伴う取組に抵抗があるから	16	9.8%
その他	13	8.0%
合計	163	100.0%



その他 記述事項

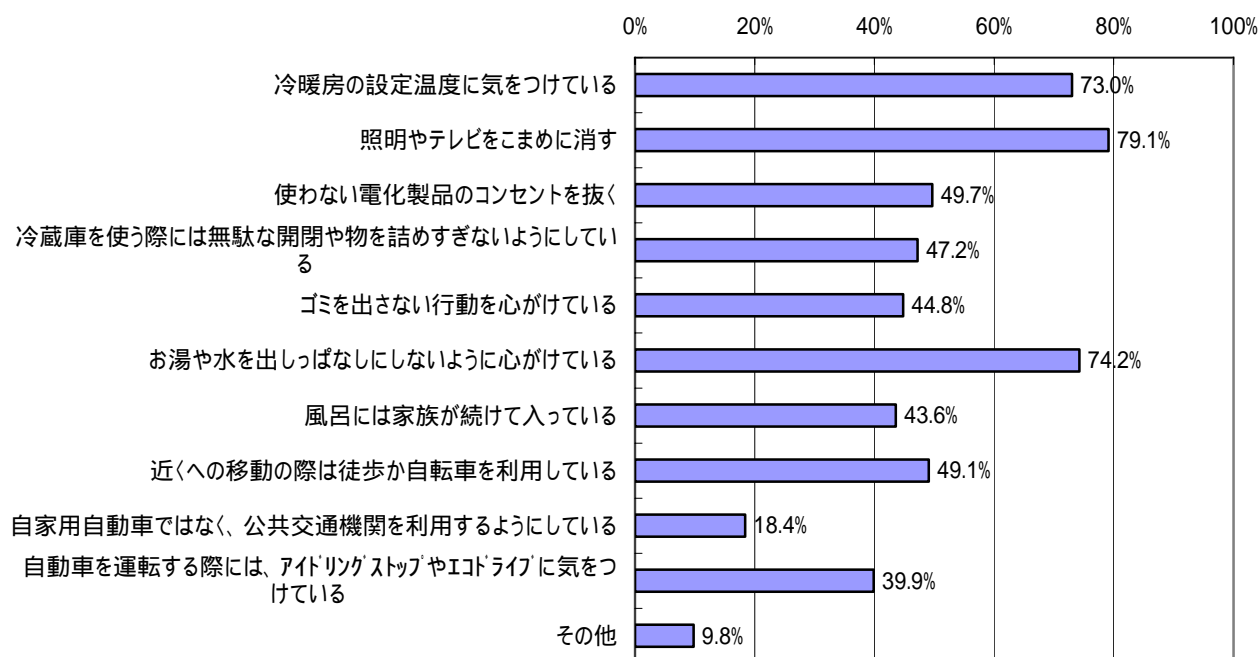
- ・国、地方の対応が外国に比べて遅い。
- ・危機感が低く、実感として認識しにくい。
- ・CO2の排出量を減らす具体的な方法が分かっていない。 等

問9 省エネルギーについて、あなたがふだん生活をしていく上でどのような点に気をつけていますか。
(はいいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
冷暖房の設定温度に気をつけている	119	73.0%
照明やテレビをこまめに消す	129	79.1%
使わない電化製品のコンセントを抜く	81	49.7%
冷蔵庫を使う際には無駄な開閉や物を詰めすぎないようにしている	77	47.2%
ゴミを出さない行動を心がけている	73	44.8%
お湯や水を出しっぱなしにしないように心がけている	121	74.2%
風呂には家族が続けて入っている	71	43.6%
近くへの移動の際は徒歩か自転車を利用している	80	49.1%
自家用自動車ではなく、公共交通機関を利用するようにしている	30	18.4%
自動車を運転する際には、アイドリングストップやエコドライブに気をつけている	65	39.9%
その他	16	9.8%

その他 記述事項

- ・ 不要な物は購入しない。
- ・ エアコンはなるべく使用しない。
- ・ ゴミのリサイクルを徹底している。
- ・ 買い物の際には、店の袋ではなくエコバックを使用している。
- ・ 雨水を貯めて水まきに利用している。 等

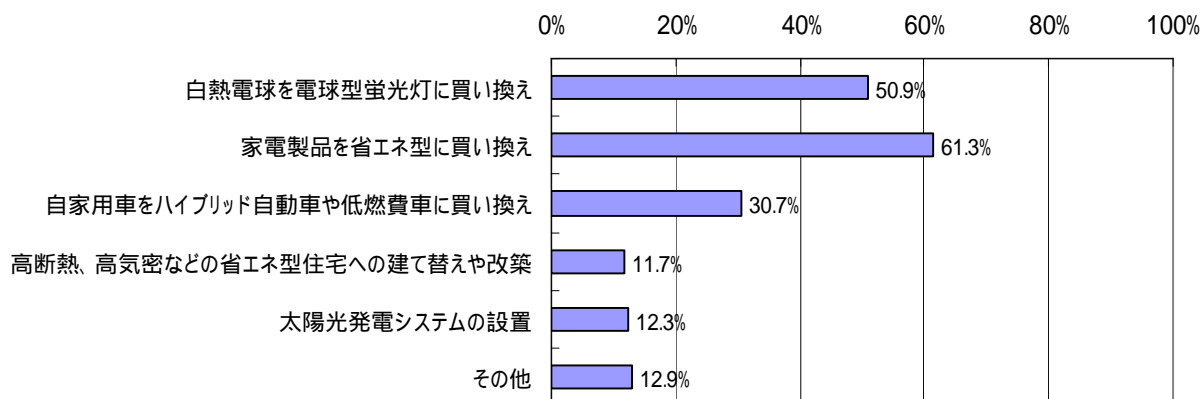


問10 環境に配慮した製品への買い換えなどを実施したり、または考えておられますか(はい/いつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
白熱電球を電球型蛍光灯に買い換え	83	50.9%
家電製品を省エネ型に買い換え	100	61.3%
自家用車をハイブリッド自動車や低燃費車に買い換え	50	30.7%
高断熱、高気密などの省エネ型住宅への建て替えや改築	19	11.7%
太陽光発電システムの設置	20	12.3%
その他	21	12.9%

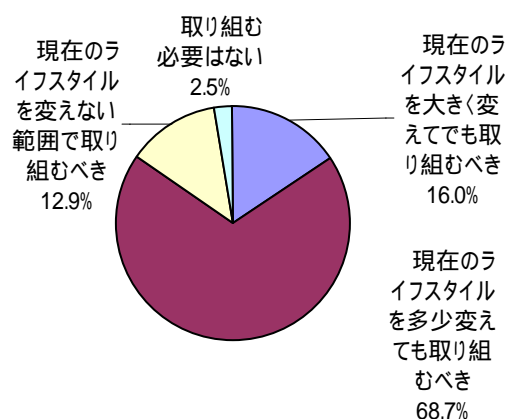
その他 記述事項

- ・特に考えていない。
- ・国等の補助金が少なく検討中。
- ・雨水利用設備の設置。
- ・エコキュートの導入。 等



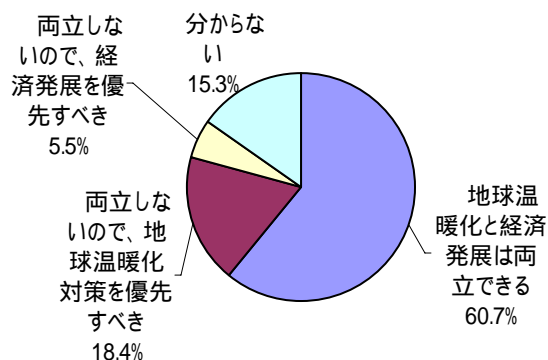
問11 地球温暖化防止のために県民が取り組むべき姿勢として、あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。(は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
現在のライフスタイルを大きく変えてでも取り組むべき	26	16.0%
現在のライフスタイルを多少変えてでも取り組むべき	112	68.7%
現在のライフスタイルを変えない範囲で取り組むべき	21	12.9%
取り組む必要はない	4	2.5%



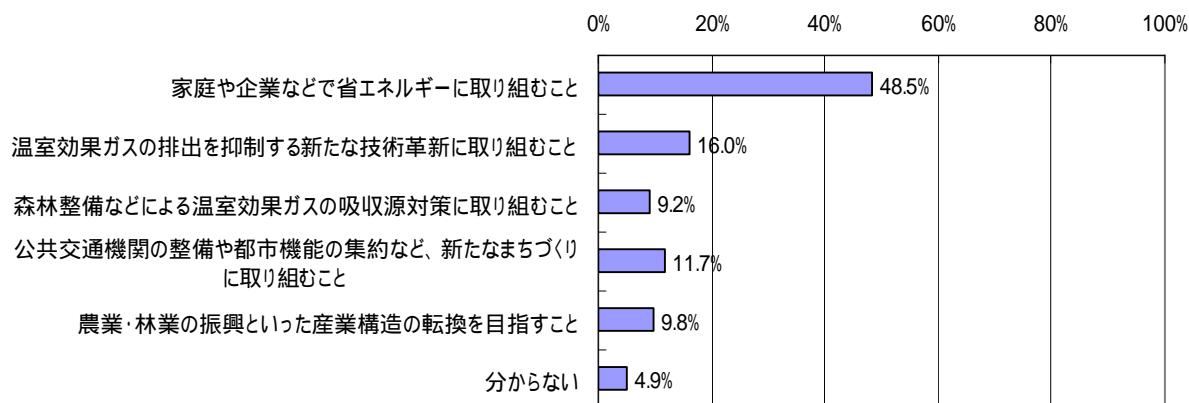
問12 温暖化対策に取り組むことにより、現在の雇用・経済問題を解決しようとする動きがありますが、温暖化対策と経済発展の関係についてどのようにお考えですか。(は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
地球温暖化と経済発展は両立できる	99	60.7%
両立しないので、地球温暖化対策を優先すべき	30	18.4%
両立しないので、経済発展を優先すべき	9	5.5%
分からない	25	15.3%



問13 地球温暖化対策に取り組むうえで、最も重視すべきことは何だとお考えですか。(は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
家庭や企業などで省エネルギーに取り組むこと	79	48.5%
温室効果ガスの排出を抑制する新たな技術革新に取り組むこと	26	16.0%
森林整備などによる温室効果ガスの吸収源対策に取り組むこと	15	9.2%
公共交通機関の整備や都市機能の集約など、新たなまちづくりに取り組むこと	19	11.7%
農業・林業の振興といった産業構造の転換を目指すこと	16	9.8%
分からない	8	4.9%

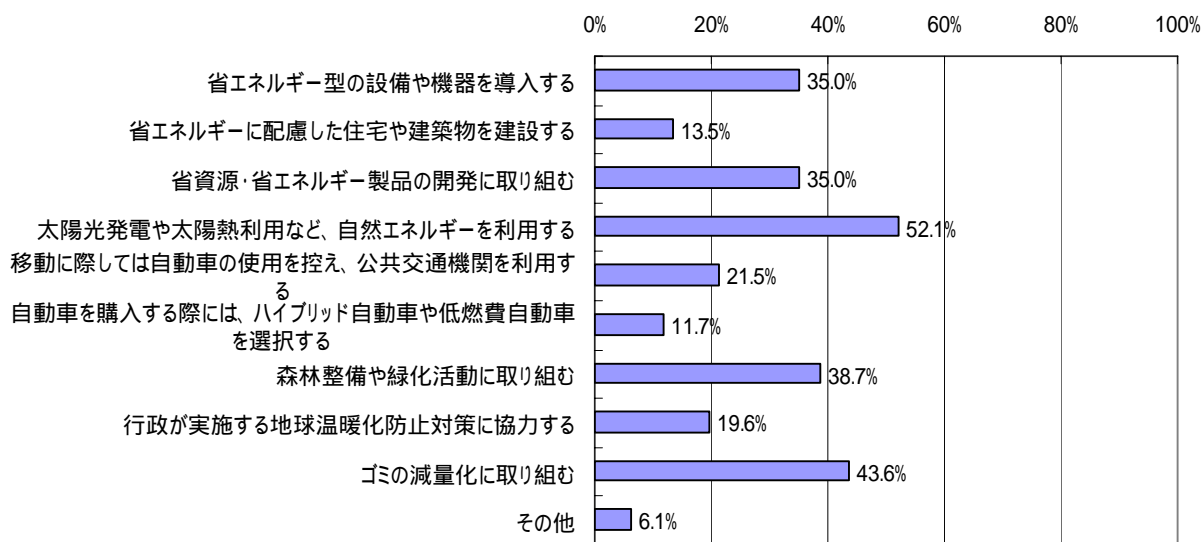


問14 地球温暖化防止のために、県民や企業、団体が取り組むべきことは何だと思いませんか。(は3つまで)

項目	人数(人)	割合(%)
省エネルギー型の設備や機器を導入する	57	35.0%
省エネルギーに配慮した住宅や建築物を建設する	22	13.5%
省資源・省エネルギー製品の開発に取り組む	57	35.0%
太陽光発電や太陽熱利用など、自然エネルギーを利用する	85	52.1%
移動に際しては自動車の使用を控え、公共交通機関を利用する	35	21.5%
自動車を購入する際には、ハイブリッド自動車や低燃費自動車を選択する	19	11.7%
森林整備や緑化活動に取り組む	63	38.7%
行政が実施する地球温暖化防止対策に協力する	32	19.6%
ゴミの減量化に取り組む	71	43.6%
その他	10	6.1%

その他 記述事項

- ・火力発電所の排出量を下げる。
- ・コンビニなどの店舗を減少させる。 等

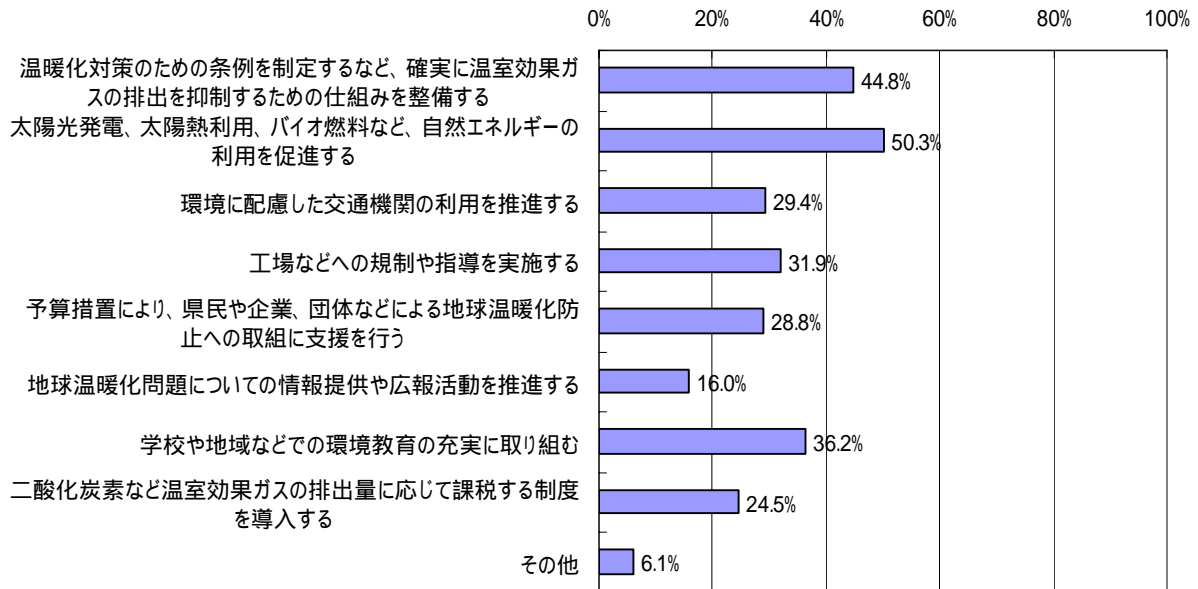


問15 地球温暖化防止のために、行政が取り組むべきことは何だと思いませんか。(は3つまで)

項目	人数(人)	割合(%)
温暖化対策のための条例を制定するなど、確実に温室効果ガスの排出を抑制するための仕組みを整備する	73	44.8%
太陽光発電、太陽熱利用、バイオ燃料など、自然エネルギーの利用を促進する	82	50.3%
環境に配慮した交通機関の利用を推進する	48	29.4%
工場などへの規制や指導を実施する	52	31.9%
予算措置により、県民や企業、団体などによる地球温暖化防止への取組に支援を行う	47	28.8%
地球温暖化問題についての情報提供や広報活動を推進する	26	16.0%
学校や地域などでの環境教育の充実に取り組む	59	36.2%
二酸化炭素など温室効果ガスの排出量に応じて課税する制度を導入する	40	24.5%
その他	10	6.1%

その他 記述事項

- ・企業の誘致や宅地開発の際、環境への影響を最大課題として検討すべき。
- ・地球温暖化が本当かどうかを研究すべき。
- ・省エネ商品購入に対する補助金制度の創設。
- ・何が必要か、行政は本当に理解しているのか。 等



問16 その他、温暖化対策についてのご意見などがありましたらお聞かせ下さい。(主なものを抜粋)

【運輸部門】

- ・高速道路 1000 円乗り放題については見直すべき。
- ・排気量の多い車の自動車税を高くすべき。
- ・自転車や公共交通機関を利用すべき。
- ・都市圏の公共交通を充実させ、都市圏は自家用車の乗り入れを禁止する。都市圏の周りは自転車中心の移動が出来るよう道路を整備。また、自転車は折りたたまなくても電車に乗れるようにする。
- ・高齢者に自転車を勧められない場合もありうる。きめ細かい、それぞれに適した協力の仕方を考えるべき。

【産業部門】

- ・大企業に対する規制が重要であり、個人や家庭の努力で何とか出来るよう呼びかけるのは、目をそらせようとするものでしかない。
- ・24 時間営業の見直しをすべき。
- ・車通勤にならないよう、企業が循環バスを出せるような仕組みが必要。
- ・飲料水などの自動販売機は、地球温暖化に影響を与える。
- ・スーパーなどの販売品の二重包装などを指導すべき。
- ・二酸化炭素以外の温室効果ガスを禁止する。

【行政】

- ・温暖化防止対策の規定作りや、継続的な評価方法まで考えていくべき。
- ・太陽光発電や風力発電などに対する補助制度を導入すべき。
- ・県民の省エネ導入の実績に応じた滋賀県独自の補助政策を打ち出すべき。

- ・自治体が情報提供を行うことは有効である。
- ・行政が明確な基準や取組内容を示して、県民、事業者の足並みをそろえるべき。
- ・車社会からの脱却に向けた取組を行政として進めるべき。
- ・実効性を重視し、取組を行うことだけが目的にならないよう十分に注意すべき。
- ・条例等でルールを作り、罰則と補助金という「飴と鞭」で決めたルールを徹底すべき。
- ・いたずらに温暖化対策に取り組むのではなく、ある程度重点施策をもって道筋をつけることが必要。
- ・公共工事についても、ゴミを少なくするエコな事業を目指して欲しい。
- ・対策の有効性は常に検証し、問題があれば柔軟に転換できるような仕組みも必要。
- ・エコ製品に買い換えるよりも、使用しない生活のほうがもっと効果があることをPRし、その取組に補助金を出すべき。

【生活】

- ・一般家庭での温室効果ガス発生源の認識が全く無いように感じられる。
- ・石油に依存した現在の生活スタイルを変えるべき。
- ・一ヶ月のゴミの量を指定のゴミ袋いくつに抑えればポイントがもらえるというようなソフト面からの充実が、ライフスタイルを変えるために効果があるのでは。
- ・ゴミの分別収集を強化する。
- ・ゴミの有料化について、県全体で取り組んで行けばよい。
- ・地球温暖化防止への取組度合いをポイント化するなど、具体的に数値化してもらえたらやりがいがあるし、やる気も起きる。
- ・誰しも温暖化に対して何らかの危機感を持っているが、対策のせいで家計が今以上に圧迫されるとなると消極的になるのが当然だと思う。

【啓発、教育・学習】

- ・テレビCMや冊子、ポスターなどでもっと広く広報すべき。
- ・県民を表彰するなどの企画も必要。PRのみでは進まない。
- ・実績を上げている企業や団体の取組を同じ立場にある企業や県民に伝えて刺激を与える。
- ・学校などで環境に対する知識や意識を持てる活動があればよい。
- ・環境学習など、質の高いプログラムを取り組ませ定着させることが必要。
- ・環境教育制度の充実を図り、子供たちに森林の大切さ、温暖化防止について、しっかり伝えるべき。
- ・子供から大人に発信してくれるような環境教育を実践してはどうか。

【その他】

- ・地球温暖化と二酸化炭素排出は実は関係ないという学説もある。
- ・結論ありきの地球温暖化という言葉には違和感を感じる。
- ・森林の環境を整えていき、自然に対してもっと県民の意識が向くようにする。
- ・地球温暖化対策も、中身は省エネ、省資源の環境問題とほとんど共通する。
- ・行政、事業者、県民各々が持てる能力を出し合って考えるべき。
- ・温暖化対策については各個人の認識や意識の仕方で大きな差があるので、平均的な何かを作って意識付けていくことが大切。
- ・罰則を強化せざるを得ないのではないか。
- ・ちょっと楽しそうという要素があるだけでも難しく環境問題を考えずに参加できる。
- ・温暖化対策と声高に言うのではなく、無駄を省くことが優先。